
Dis, Miss, Phyllis

藤森優斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

D i s , M i s s , P h y l l i s

【Nコード】

N 3 5 2 1 K

【作者名】

藤森優斗

【あらすじ】

新たな気持ちで活動しようと思い、『自分』を歌うような詩を書いていきます。僕が「こんなアルバムを出すバンドがいたら面白いなあ」なんて考えながら完成すると思うので、やっぱり詩は歌詞になりますね。

誰か歌ってくれたりしないかなあ、なんて。

Dis / Miss / Phyllis

死者への懺悔を繰り返す 偽りの儀式、捧げる花束を
綺麗な貴方とキスを結ぶ 愛の殺人鬼、窒息死したい

ねえ、したい？

毛布に包まって愛を語ろう

ねえ、死体？

有刺鉄線に絡まり続ける日々

ねえ、何をしたい？

ねえ、誰の死体？

I come back in nothing .

I go into the sea of the despair .

There is not light .

I became the body from what time .

（僕は無に帰る。絶望の海を潜る。光が無い。
何時からか僕は死体になったんだ）

ねえ、したい？

ねえ、死体？

淡い想いを墓場に埋める 偽りのキスで息を止める
誰かと世界を共有したい 同じ痛みを分かち合いたい

ああ……狂ってんの

ああ……狂つてんの？

I c o m e b a c k i n n o t h i n g .
I c o m e b a c k i n n o t h i n g .

何時からか僕は死んでいたんだ
此処に在る姿 ねえ、死体？

賛美歌独唱

心、一人、線からはみ出した

大衆文化にはついていけそうになくて

どうして？ 僕は違う道がいいのに

仮面被った皆と一緒にじゃなきゃ駄目なの？

「何考えてるの？ 貴方はいつも目が死んでる」

そんな事わかってんだよ

仕方ないでしょ？ 皆が僕を騙すからだ

ねえ、逝きたいよ

「死んじや駄目」なんて教わってないし

ねえ、逝きたいよ

だから先生、大人らしく僕を助けてよ

心、一つ、白線の外側

今日が何曜日かもわからなくなつて

なんでさ、僕の世界は一畳より狭いの？

膝抱えて背中丸めなきゃ生きられないの？

「皆いらない。死んでしまえばいい」

そんな事ばつか言う少女

わからないでしょ？ 皆には少女の魅力が

ねえ、逝きたいよ

少し違う、世界が見たくて刻む傷

ねえ、逝きたいよ

だから先生、『命』の意味を教えてよ

もう駄目だ

孤独の森で賛美歌独唱

もう駄目だ

一畳の世界で賛美歌独唱

ねえ、逝きたいよ……。

ねえ、逝きたいよ……。

ねえ、逝きたいよ

「生きる意味」なんて習えないし

ねえ、逝きたいよ

群集に混ざる事に疲れたんだ

ねえ、逝きたいよ

ねえ、生きたいよ……。

カルテ

あの日、僕を嫌った可愛い彼女
その憎しみを手首に刻んで生きている
今だって痛いんだ

心はいつも重症 治せる薬が欲しい

去年、抱きしめてくれた小さな少女
今頃は知らないオヤジに体売っている
間違いであって欲しい

心はいつも重体 頼むからオペをして

行く場所も無い想いの墓場

溜め込む事なら馴れてしまったよ

忘れない痛み

思い出したくない悲しみ

それでも僕等はカルテに記す

昨日、僕を励ましてくれた女の子

君だって、半年前は知らない奴と寝てただろ？

いつも胸が痛いんだ

心はいつも傷だらけ 先生、診断書をくれ

僕が好きなあの子の膜はもう破れてるのか……。

僕が好きなあの子の涙は奴が拭っていたのか……。

僕が好きなあの子の胸は痣が残ってるだろうか……。

僕が好きなあの子の子宮に僕の全てを注ぎたい……。

忘れない痛み

思い出したくない悲しみ

それでも僕等はカルテに記す

知りたくない事実

受け止めきれない現実

それらを心のカルテに記す

新たな傷として……。

治らない病として……。

My Dead Friend

誰も理解してくれない

僕が見る世界に君達はいれないんだ

誰も相手してくれない

僕を見る世界に君達は住んでるんだ

そこは知らねえよ

主語が無くても分かって欲しい

底は見れねえよ

堕ちた場所には綱が垂れる

そう、いつだって僕の世界に響く名曲が

精神崩壊を許してくれない

いつだって僕の世界で流れる名曲が

「生きる」って「諦めるな」って言うから

僕は死なずに此処にいる

誰も理解してくれない世界の中に

僕の友達は死んだ

僕には関係無い世界が一つ減った

僕の彼女が死んだ

僕に関係が有る世界が一つ減った

何も知らねえよ

独り言とは、本当に孤独か？

誰か助けてよ

そんな僕にも綱が垂れる

蜘蛛の糸とは、この事だろうか
命綱が僕の耳元から垂れてくる
イヤホンから聴こえて来るブルース
堕ちた底にこそ、光あれ

そう、いつだって僕の世界に響く名曲が
精神崩壊を許してくれない
いつだって僕の世界で流れる名曲が
「生きる」って「諦めるな」って言うから

僕は死なずに此处にいる
誰も理解してくれない世界の中に

いつだって名曲が流れ続けるから
狂った精神でも生きなきゃいけない……。
いつだって名曲が流れ続けるから
腐った思想でも生きなきゃいけない……。

優しい世界

悲しさの置き場は予め用意されていて
群衆に染まる術も心得ているはず
ああ、なんて優しい世界なんだ

居たくもないのに居場所が出来てしまう
欲しくもないのに知人は近付いてしまう
ああ、なんて優しい世界なんだ

余計なお世話なのに
余計なお世話なのに……。
どうして、頬を伝う塩水

包み込む喧騒に嫌気がさしてきた
群衆に溶ける術を見失っても
ああ、なんて優しい世界なんだ

余計なお世話なのに
余計なお世話なのに……。
どうして、此処に集う温もり

ああ、生まれた事に縋ろう
死ぬ事を考えて、諦めは止そう
ああ、生きてる事に頼ろう
死ぬ事を考えて、今は生きよう

本心の通りに進んでいく世界なんだ
僕達に甘すぎる 優しい世界だ

ああ、なんて優しい世界なんだ
ああ、なんて残酷な世界なんだ

余計なお世話なのに……。

Our Indoor

背が小さくて可愛いあの子
明るくてちよつと腹黒いあの子
僕と似ている、僕と気が合う
なのに何で、僕を好きになつてくれないんだ……。

化粧品が必需品の女子高生
ライフが必需品の子供達
何処か似ている、きつと気が合う
なのに何で、生活がこうも違うのだ……。

喧騒、擦れ違い
東京の空は今日も僕を脅かす
心臓、擦れ合い
恋人の膜を破る事が怖いんだ

誰も僕を見てくれない
誰も僕を見てくれない
それもそうか、そりゃそうか
こんな個室に籠ってるのだから……。

暴走、掛け違い
東京の人は今日も足早に進む
心臓、擦れ合い
受精の愛を見破る子が怖いんだ

どうして、あの子は僕を好きにならない……。
どうして、あの子は僕を嫌いにならない……。

誰も僕を見てくれない

誰も僕を見てくれない

それもそうか、そりやそうか

誰も僕を知ってくれない

誰も僕を知ってくれない

これも愛か？　それが哀か？

一人、孤独の個室に閉じ籠る……。

虹色シンフォニー

嘘を敷き詰めた世界に偽りの花束を
捧げる君の両手こそ嘘で黒く染まってる

ミサを終えた僕達は偽りの賛美歌を
唱える君の美声こそ嘘で黒く染まってる

世界中が僕の為に回っている訳じゃない
もし僕が死んだって、世界は何も変わらないだろ

素晴らしい日々

鳥の悲鳴が示す警告

戦争を続けて成り立つ世界……。

僕等の虹色シンフォニー

地雷敷き詰めた世界に幸せの音楽を
奏でる歌い人、血を吐いて世界を讃える

素晴らしい日々

子供の涙が描く警告

殺人事件にも馴れた世界……。

僕等の虹色シンフォニー

We who live in the days of the
rainbow color.
I was used to watching a warm
ovie.

"The shield of the child"

Is it precious of the life?
I do not recognize the world.

(虹色の日々を生きる僕達。戦争映画を見る事にも馴れたんだ。
『子供を盾にする』それが命の尊さか？ 僕はそんな世界を認めない。)

素晴らしい日々

世界の涙が示す警告

ありふれた景色が広がる世界……。

僕達の虹色シンフォニー

Will it be "world peace" to recognize the world?
The world does not become so peaceful throughout the life.

(世界を認める事が『世界平和』ですか？ そうなら、世界は一生平和にはなれない)

十二月の生命

満点の星空が広がる十二月の夜

「皆死ねばいい」と呟いた少女

世界を恨む小さな瞳に僕は惚れていた

背中越しから伝わる少女の温もり

それは『生命の美学』の様な温度

世界を恨む細身な体に僕は惚れていた

夢の中で君に出逢えたら

僕の想いを全て伝えたい

生まれたての姿で、裸の気持ちを持つて

僕は夢で君を犯したい

純粹な嘘が敷かれた時代の中

「私は要らない」と呟いた少女

世界を恨む可愛い声に僕は惚れていた

B r i g h t 2 0 0 9 .

S h e b e c a m e a s t a r o f D e c e m b e r .

T h e b e a u t i f u l n i g h t w h e n t h e w

o r l d s e e m s t o b e o v e r .

T h e s h o o t i n g s t a r f a l l s l i k e t

e a r s .

(輝かしい2009年。彼女は十二月の星になった。

世界が終わりそうな綺麗な夜。流れ星は涙の様に落ちていく。)

夢の中で君に出逢えたら
偽りのキスを交わしたい

十二月の星空の下、裸の気持ちを持って
僕は夢で君を犯したい

I hide, advocate words of them
agile that she muttered.
It seems to be splendid
etics of the life". aesthetic

（僕は隠れて、彼女が呟いた魔法の言葉を唱える。
それは素晴らしき『生命の美学』の様だ。）

世界を恨む小さな背中に僕は惚れていた
十二月の星空の下、彼女に惚れていた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3521k/>

Dis, Miss, Phyllis

2010年10月10日06時30分発行